

パートナースマイルプラン～笑顔で社会に進出を～【鉾田市】

地域の実情と課題

本市で事業を実施していく中で、理想としては男女ともに家庭生活における分担を意識し、女性が活躍できる機会を増やすことに賛同している一方で、現実として女性は仕事を優先できない現状が顕わになった。

背景として、市の就業構造が家族経営的な個人事業主に傾倒していることから、固定的性別役割分担意識の慣行が残っている当市では、家事・育児等の負担が女性に集中する傾向にあり、家事・育児等が女性の活躍を妨げるという課題が挙げられる。

事業の特徴

①「商工版家族経営協定」及び「パパ・ママ感謝の日」運動の実施
商工会と連携し、啓発チラシの配布等、個人事業主の主体性の涵養に努めた。また、大型量販店と連携したキャンペーンを展開し、官民で女性活躍推進意識の啓発を進めた。

②講演会の開催、啓発パンフレットの作成
一般市民を対象とした講演会を引き続き開催するとともに、若年層からの意識底上げを図るため、市内中学生・高校生を対象とした講演会や、市独自の啓発用品を配布した。

事業の効果

①「商工版家族経営協定」及び「パパ・ママ感謝の日」運動の実施
啓発チラシの配布【目標:100,000枚 実績:155,000枚 達成率:155%】
啓発のぼり旗の配布数【目標:80本 実績:180本 達成率:225%】

②講演会開催、啓発パンフレットの作成
「家庭生活」と「仕事」をともに優先している女性の割合
【目標:60.0% 実績:81.4% 達成率:135.7%】
パンフレットの配布数
【目標:3,500部 実績:1,210部 達成率:34.6%】

目的・目標

- ①「商工版家族経営協定」及び「パパ・ママ感謝の日」運動の実施
目的:女性の家庭生活における安定と男性の家庭生活への参画意識の醸成、家庭全体における仕事に対する女性の活躍の認知的枠組みの形成
目標:啓発チラシの配布(100,000枚)のぼり旗の配布(80本)
- ②1.講演会開催、2.啓発パンフレットの作成
1.目的:女性の社会進出・活躍に係る意識の醸成
目標:家事・育児は男女が分担して行うべきと考える人の割合(80%以上)
2.目的:若年層向けの啓発品を作成・配布し、女性活躍意識の底上げを図る。
目標:パンフレットの配布数(3,500部)

連携団体

- ・鹿行ブロック男女共同参画研究会
(鹿嶋市・潮来市・神栖市・行方市・鉾田市・茨城県鹿行生涯学習センター等)
- ・鉾田市男女共同参画推進委員会
(市議会・商工会・農業協同組合・保育園・自営業者・経営者等)
- ・鉾田市教育委員会、鉾田市PTA連絡協議会 など

今後の課題

「商工業版家族経営協定」の実施に向け、鉾田市男女共同参画推進委員会や市商工会、商工事業者等と調整していくとともに、若年層を中心とした行動啓発型事業の展開を協議していく。また、本市の課題である個人事業主等への個人に対する女性活躍意識の啓発のため、事業の敷居を下げ、きめ細やかな啓発事業を実施することが本市の女性活躍社会の基盤整備において有効だと考える。

事業の概要

①「商工業版家族経営協定」及び「パパ・ママ感謝の日」運動の実施

「商工業版家族経営協定」を効果的に実施するため、女性の家庭生活における安定と男性の家庭生活への参画意識の醸成、家族全体における仕事に対する女性の活躍の認知的枠組みの形成を目的に、「パパ・ママ感謝の日」を制定。市内外で活躍する個人事業主や関係団体で構成する銚田市男女共同参画推進委員会と大型量販店とが連携したキャンペーンを展開し、官民できめ細やかな女性活躍推進意識の啓発を進めた。

☆街頭キャンペーン(8月～2月まで計5回実施)

☆啓発チラシ配布数: 139, 500枚(市内全域新聞折込15, 500世帯×9月)

☆啓発のぼり旗配布数: 180本(商工会連携事業所及び大型量販店76事業所)



②講演会の開催、啓発パンフレットの作成

1. 女性の社会進出・活躍や男性の家庭生活への参画意識を啓発することを目的とした講演会を実施。

I「固定観念を与えない子育て」

・開催日: 令和元年8月17日(土)

・参加者: 一般市民及び市内PTA132名

・講師: 酒井佑介氏(株)エデュピーチ代表取締役)

講演会の様子

II「男女が共に輝ける社会に向けて～自分が輝く生き方を見つけよう」

・開催日: 令和元年11月27日(水)

・参加者: 銚田市立銚田北中学校生徒及び関係者79名

・講師: 鷲田美加氏(オフィスブラッシュ代表)

III「親になるとは」

・開催日: 令和2年2月7日(金)

・参加者: 茨城県立銚田第一高等学校生徒及び関係者274人

・講師: 渡邊大地氏(株)アイナロハ代表取締役)



○総括

・各講演会参加者へのアンケートや市内中学生へのヒアリングより、若年層を中心とした職業生活における女性活躍意識の涵養と、それを支える男性の家庭生活参画意識の向上が見られた。また、自身のライフデザインと女性活躍社会を結びつけ、これからの経済社会における女性の活躍推進とその問題を提起できる意見が散見されるようになった。引き続き、市全体での女性活躍意識の底上げの取り組んでいく必要がある。

2. 啓発パンフレットの作成

・女性活躍推進意識の啓発を目的とした市独自の啓発パンフレットを作成、市内中学生に配布。昨年度作成したものをベースに、市内中学生等からヒアリング、「内容的に活用対象は中学生が適切」、「チェックリストを活用した事業を展開できると良い」等の意見を取り入れながら作成や活用を検討、実施した。

